

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい
（月200円程度）
2月 46人 52,750円
1月 47人 37,150円

地域活性化事業 有機農業振興は藤島地域に矮小化 新たに地域振興計画の策定

平成25年度の地域活性化事業は左表のとおりで、25年度に新たに地域振興計画を策定するとしています。

鶴岡市では環境保全

型農業の推進計画を25年度策定し、その中に有機農業振興を位置づけるとし、全市への位置づけはその後となる見込みです。

平成25年度の地域活性化事業は左表のとおりで、25年度に新たに地域振興計画を策定するとしています。

藤島の有機農業推進

事業は全市に拡大すべきものが25年度、藤島地域の活性化事業の枠の中に入れられていま

3月議会 党市議団 総括質問に対する答弁

榎本市長
難波教育長

【経済対策と雇用】

国の経済対策を可能な限り受け入れると共に、雇用創出について

は県の基金活用事業や国の補正予算の他、市独自の緊急雇用事業を追加し、89人の雇用を

地域活性化事業（各地域の特色を生かした地域づくりの推進）（平成25年度当初予算）

課題	事業名	事業費	事業内容
地域審議会 の開催	地域審議会運営 事業	486万9千円	地域ごとに課題や特性を踏まえたテーマを設定して、今後の地域のあり方について検討を行う。
地域の活性化	地域活性化事業	300万円	総合計画の中間見直しに併せて、新たに地域振興計画を策定する。
藤島地域の 活性化	地域活性化事業 (藤島)	261万9千円	<ul style="list-style-type: none"> ・藤島地域の有機農産物の収益力向上に向けた事業への支援 69万6千円 ・市内各地の伝統芸能が一堂に会する鶴岡伝統芸能祭を開催する事業への支援 56万5千円 ・「日本一ふじの里づくり」に向けた藤づくり講習会等の実施 13万4千円 ・庄内農業高校と連携し、地域農産物の加工品化等に取組む事業への支援 80万円
羽黒地域の 活性化	地域活性化事業 (羽黒)	298万5千円	<ul style="list-style-type: none"> ・手向地区の門前町歴史まちづくり整備計画の策定 38万円 ・松ヶ岡地域の振興ビジョン策定に向けた取り組みの支援 75万円 ・映画口ケ地として全国に魅力発信を行う事業と庄内映画村オープンセットから観光施設への誘客を図る事業に対する支援 26万4千円 ・出羽三山の精進料理を地域内外へ広くPRし、宿坊街に誘客を図る事業への支援 41万1千円
櫛引地域の 活性化	地域活性化事業 (櫛引)	232万7千円	<ul style="list-style-type: none"> ・黒川能の後継者育成に対する支援 40万7千円 ・黒川能の装束や能面等を紹介する「黒川能図録」の発刊に対する支援 60万円 ・「フルーツの里くしびき」の観光果樹園を広く紹介する事業への支援 45万円 ・J Aが行う都市農村交流と農産物の販路拡大に向けた事業への支援 22万円 ・くしびき夏のイベントの開催支援 40万円
朝日地域の 活性化	地域活性化事業 (朝日)	197万5千円	<ul style="list-style-type: none"> ・月山ワインまつりとワイン・山ぶどう製品の販路拡大に向けた事業への支援 59万円 ・山菜やきのこ等の農産物加工品化に向けた研修会や販路拡大調査事業への支援 35万円 ・大鳥自然の家周辺の植栽等整備や山野草マップを活用した自然観察会の実施 30万円 ・小学校スキー教室の実施 ・地域の伝統行事や自然景観等を紹介する地域振興カレンダーの作成
温海地域の 活性化	地域活性化事業 (温海)	110万2千円	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地を解消し有効活用を図る生産者組織への支援 35万1千円 ・農産加工品の普及促進に向けた講習会や料理教室等への支援 20万円 ・焼畑温海かぶのブランド力を更に向上させるための検討事業等への支援 21万8千円 ・日沿道温海鶴岡間の完成を契機とする温海地域への集客・活性化を図る事業への支援
地域間連携 による活性化	地域間連携事業	708万9千円	<ul style="list-style-type: none"> ・管内のそば生産組合等との連携による地元産そば粉の地元での消費拡大への支援 100万円 ・黒川能と山戸能が競演する「せせらぎの能」や市内各地の伝統芸能を紹介するイベントの実施 200万円 ・朝日と温海地域の農業者が連携して行う農産物の販路拡大事業への支援 100万円 ・由良と鼠ヶ関地区が連携して実施する海洋資源を活かしたツーリズム事業等への支援 90万円 ・歴史、文化、芸能、食等の地域特性を活かした空き家活用計画の策定

図る。

ワークサポートルームで昨年度から実施している若年者無料職業紹介や内職相談、あつせんなどきめ細かく対応していく。

【市の臨時職員の雇用の改善】



同一人を同一の職に長期にわたり任用することは、

均等な就業機会付与の阻害要因となる他、特定の人の身分の固定化を招きかねないこと、長期にわたって就労できるといつ誤解を招かないよう、あらかじめ更新の限度を定めるべきもの。

嘱託職員についても、業務の専門性や経験にもとづく業務の効率性等も考慮し、一定の限度が必要で、1年ごとに客観的な能力評価を経て任用の更新をすることとし、限度は5年とすることが至当と判断した。

【TPP参加】

農業を基幹とする本市にとり、米に限らず安価な輸入農産物の拡大は地域農業に与える影響は大きく、私自身としてはTPP参加に反対。

あらゆる分野での影響力の検証や十分な論議と、真に国益に即した判断を強く求める。

【行財政改革】

合併特例期間の終了を見据え、行財政基盤を確立すること、市民とのパートナーシップによりまちづくりを推進することを基本的方

針としている。

行財政改革により生み出される財源は、戦略的分野で効果的な活用を図り、基金の積み立てや市債の繰上償還など、今後の財政運営に資する基盤づくりと将来負担の軽減に取り組むことが出来た。

【国民健康保険】

一般会計の繰入れについては、国の特別調整交付金の特別事情分（特々分）の財源の確保に留意し、法定外の繰り入れはおこなわないとしてきた。

今回の国保改定では多方面の財源確保をおこなっても増税は避けられないことから、税負担を少しでも軽減するため、特々分に影響を与えない範囲で法定外の繰り入れを新たに追加することにした。

法定外繰り入れには交付税措置がないため、市民全体の負担となるもので、合併特例期間終了を見据えれば、これ以上の国保会計の肩代わりは出来ない。

【体罰】



学校における体罰については文科省の指示により調査を実施しており、3月末には明らかとなる。

実際に部活動などで「行き過ぎた指導ではないか」との指摘や相談が保護者から寄せられている。

部活動の意義や目的を確認し、体罰を「厳しい指導」として正当化することは誤りであることを徹底する。

藤島地域の道路公共事業3箇所 25年度予算

25年度の藤島地域の道路公共事業は3箇所が予定されています。八色木中央線は24、25年度の2カ年事業でのオーバレイ（ひび割れを起こした舗装の補修）がおこなわれ、1200万円が予算化されています。

上荒俣北線の拡幅舗装工事は調査費1140万円が予算化され、来年度以降に着工されます。完成後に上荒俣をスクールバス運行ルート



に加える予定です。

24年度3月議会補正で、川尻手向線の歩道設置工事7400万円が予算化され、25年度繰越明許で実施されます。

歴史公園は用地購入

3月議会補正で、「藤島城址前等整備・歴史公園整備事業」1億2547万円が予算化され、市開発公社が購入した用地（県試験場・民有地・東北電力）を市が買い戻します。

乳がんが教えてくれた 寄り添う言葉を

「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇



は、「自分独りの力で生きてきたと思っていた。でも病気になって、全力で私を治そうとしてくれる先生や看護師さん、家族や周りに人の存在に気づいた。'ことだと語る。

体験を語る講演

3月3日号「赤旗日曜版」の「くらし彩々」欄である。闘病記『明るい光のさすほうへ乳がんが教えてくれたこと』（文芸社）を出版再発の不安を抱えて闘病生活し、スーパールの職場復帰を目指している神奈川県松下裕子（45）さんの話である。

2年前乳腺外科を受診「悪性の形、詳しい検査を」と告知され、約3センチ腫瘍を抗がん剤で小さくする治療を終えて手術し放射線治療を受ける。しかし、副作用での手足のしびれ、リンパ節切除で重い荷物を持てなかったことも。さらに心の傷になったのはがん患者への偏見。乗り越えて闘病記を書く原動力になったの



英語のヒストリー・historyはフランス語ではイストワル・histoireです。フランス語ではh

を読まないの、私の名はイロシになります。

イストワルは仏和辞典で、おおよそ、歴史、物語、（ありそつもない）作り話、事のなりゆきなどとなっています。

イストワルという一つのことは、相容れない意味が入っているように見えます。でも現実のことが、この



日本をマルナゲ

やっと行けたネー。やっと会えたネー。どうですあの笑顔、大統領と握手をしたあの顔が。私には入学前の子どもが楽しみにしていた机を買ってもらった顔に見えました。

年の始めには行きたかったようだが、待ちに待たされた。待たされるほど手土産は考えなくてはいらない。サスガはアメリカですヨ。待たせたのは「テ」だったのだ。

ンテ考えた手土産は「日本を取り戻す」の公約の安倍が日本をマルナゲだ。だってそうでしょう。国民の反対の声は言わないで、TPPには参加の方向、米軍普天間基地の辺野古への移設を約束したのだから。

TPPは2国間のものではないのですが、大統領がナントなく良く耳に響くようにコトバを選んで言ったのを都合良く解釈し、いい

一方が といつことを他方が であると主張することが日常的に見られます。歴史認識という難しい問題になったり、国際的な緊張が生まれたりします。こうした現実をイストワルは反映しているといえます。

イストワルの

は、ものの考え方に役立ちます。ある言説を見ると、それがどれにあたるかを考えたいものです。

感触を得ただけです。最初から全部、関税撤廃を言つては日本の参加が難しいと分かっている大統領。チヨロチヨロと水が流れているナと思わせる位のことをシャベツたんです。実際の交渉に入れば、その水も止められます。これをとらえてメディアは大喜びの報道です。ゴマカシやムジユンを追求し、間違いない方向に進めるといふ仕事を忘れていまますヨ。メディアは。

沖繩の基地は、全部の議会で「なくせよ」と議決しているんですが、これを言えなかつた。これで日本の代表と言えますか。ダイタイ、アメリカの基地を日本が動かすナンテいう事は変でシヨ。日本の物ではないんだからサ。

だから、動かす時はグアムでもどこへでも沖繩の声を聞いて出て行ってヨと言えればいい事ですが、それができないであの笑顔です。

(石川)